

体外衝撃波による結石破碎前後の胆嚢の収縮能

Gallbladder motility before and after extracorporeal shock-wave lithotripsy: Spengler U, et al (Gastroenterology 96: 860-863, 1989)

胆嚢結石に対する体外衝撃波結石破碎 (Extracorporeal Shock-Wave Lithotripsy; ESWL) により胆嚢の収縮能に変化が生じるか否かを知るために、経静脈的に投与した cholecystokinin に対する胆嚢の収縮能を超音波を用いて検討した。有症状の胆嚢結石を持った 21 人の患者が ESWL の前後で検査され、うち 12 人は胆石溶解剤 (UDCA, CDCA) の内服を行い (A 群)、9 人は行わなかった (B 群)。胆嚢の収縮

能の評価は胆嚢の空腹時容量、CCK 静注後の最大収縮時容量 (residual volume) および half contraction time で行った。胆嚢の収縮能は ESWL の前では両群とも対象群に比べて有意に低下し不完全であった (A 群: residual volume 51% $\pm$ 10%, half contraction time 40 $\pm$ 5 分, B 群: residual volume 51% $\pm$ 10%, half contraction time 46 $\pm$ 7 分, 対象群: residual volume 15% $\pm$ 4%, half contraction time 18 $\pm$ 2 分)。

胆嚢の収縮能は A 群では結石破碎後 1 日で、B 群では結石破碎後 1 年で変化しなかった。なお、結石は A 群で 9 例 (2~530 日)、B 群で全例 (7~250 日) で消失したが結石消失と収縮能の間には関係はなかつ

た。

これらの結果から著者らは次のように結論している。(a) ESWL は胆嚢の収縮能に対して早期および長期に悪影響をもたらさない。すなわち、ESWL は機能障害を引き起こすような胆嚢壁の組織学的な変化を来さない。(b) 胆石に伴う胆嚢の収縮能の欠損は ESWL により胆石を除去しても改善されない。このことは ESWL 後の胆石の再発にとって重要な因子となるかもしれない。胆嚢の機能が低下していることにより結石再発の危険性が高くなるのか否か、ESWL 後の経過観察により明らかにされることが望まれる。

(愛知県がんセンター消化器内科

中村常哉 抄)